

久川 浩章, 藤枝 幹也, 脇口 宏  
 (同 小児・思春期科)  
 松浦喜美夫  
 (仁淀地区国民健康保険組合病院)  
 上岡 数人  
 (高知県立安芸病院外科)  
 森畑東洋一  
 (もりはた小児科)

2歳6ヵ月時風疹罹患時に肝腫大を指摘される。3歳時肝のS6, S8に肝芽腫と診断。化学療法を2クール後, 肝右葉切除術施行。術後化学療法3クールが行われた。父親・叔父・父方祖母が大腸腺腫症と診断。19歳時に大腸内視鏡施行となった。これまでの本邦での肝芽腫と大腸腺腫症の合併報告例5例であり, 大腸腺腫症家系に発生した肝芽腫は3例であった。肝芽腫と大腸腺腫症には関連があるため注意が必要と考えられた。

#### 11. 肝門部浸潤肝芽腫の1例

土居 崇, 宮内 勝敏, 渡部 祐司  
 堀内 淳, 三次麻衣子, 河内 寛治  
 (愛媛大学第二外科)  
 田内 久道, 徳田 桐子, 石丸愛幸子  
 石田也寸志, 貴田 嘉一  
 (同 小児科)

1歳1ヵ月男児。7ヵ月健診で腹部腫瘤を指摘された。AFP 78170 ng/ml, 肝S5～S6一部S4に浸潤する石灰化を伴った腫瘤を認め, 肝芽腫と診断。肝門部で門脈を圧排しPRETEXT-IVと判断した。化学療法6コース施行した後, AFPが38 ng/mlまで低下し, 門脈への圧排が改善したため一部S4を含む肝右葉切除術を行った。肝門部への浸潤が術前化学療法により軽快し摘出可能となった。

#### 12. 演題取り下げ

#### 13. 腫瘍破裂で発症したFrantz腫瘍の1例

諸富 嘉樹, 春本 研, 林 宏昭  
 (大阪市立大学小児外科)

10歳の女児, 突然の腹痛で発症した。CTで膵

腫瘍の破裂と診断され紹介入院となった。Frantz腫瘍(Solid-pseudopapillary tumor of the pancreas)の破裂と考え緊急開腹した。膵体部の5×5cm大の腫瘍で, 核出できた。NSE高値だったが術後は正常化した。若年女性に好発のborderline腫瘍で, 症候性に乏しく, 破裂の報告は少ない。

#### 14. 術中迅速組織診にて悪性リンパ腫が疑われたWilms腫瘍の1例

三宅 孝典, 斎藤 博昭, 池口 正英  
 (鳥取大学医学部附属病院第一外科)  
 清水 法男  
 (同 小児外科)  
 堀向 健太  
 (同 小児科)

症例は1歳1ヵ月の女児。母親が腹部の腫瘤に気づき当院に入院。腎芽腫の術前診断にて手術を施行したが迅速組織診にて悪性リンパ腫を強く疑われたためゴアテックスメンブレンを用いて腸管を覆い手術を終了した。術後の組織診断は腎芽腫で, 再手術にて腫瘍を摘出した。本症例は予後不良な退形成腎芽腫で術後に肺転移が出現したが, 化学療法により転移巣はすべて消失した。今後, 予後不良症例に対する有効な治療法の確立が望まれる。

#### 15. Castleman病と考えられた1例

山岡 裕明, 檜山 英三, 末田泰二郎  
 (広島大学病院小児外科)  
 溝口 洋子, 中村 和洋, 宮河真一郎  
 (同 小児科)

症例: 6歳, 女児。主訴: 発熱。既往歴・家族歴に特記すべき事なし。現病歴: 入院8日前より38℃台の発熱が出現, 顔色不良も認め近医受診。白血球・血小板増多, 貧血, 高CRP血症認め当院入院。腹部CTで, 左後腹膜に4×3×4cm大の造影されない内部均一の腫瘤を認めた。摘出後, 速やかに解熱, CRP低下, 貧血の改善, IL-6は正常化。リンパ濾胞の過形成で悪性所見なく, 臨床症状と合わせCastleman病と診断。